



わたしの青少年赤十字

詩・100文字提案作品集

「東日本大震災」 子どもたちからの声



はじめに

青少年赤十字の大きな特色は、学校教育の中に組織され、教師の適切な指導の下で実践されていることです。

青少年赤十字に加盟している学校では、子どもたちに「人道」の精神を育みながら、子どもたちの主体的な青少年赤十字活動により、子どもたち自らに豊かな人間性の醸成を図っています。

そこで、福島県支部では、子どもたちが実践していること、思っていることを一〇〇文字程度に表現した「詩・一〇〇文字提案作品」を募集いたしました。本年度も、海外の赤十字社から寄せられた救援金で推進されている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施いたしました。

多数の優秀な作品の中から「日本赤十字社社長賞」「日本赤十字社福島県支部長賞」「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」を特別賞として選び、以下、「優秀賞」「佳作」「入選」を選定させていただきました。また、受賞した作品が多数の学校には「学校賞」を、五年連続で応募された学校には「学校奨励賞」を授与させていただきました。

今年度もこれらの受賞作品をまとめ、本冊子を刊行することができましたことに深く感謝いたします。「人道」の精神のもと、子どもたちが未来に大きな夢を持ち、それに向けて努力する生き生きとした姿を感じ取っていただければ幸いです。

募集作品

□詩（いのちの詩・愛の詩）

人間のいのちはかけがえないもの。

そのいのちを守るために、自分や周りの人、生きものを大切にしなければなりません。そんなみなさんの素直な願いや感動を、そして未来に向けての夢・希望をぜひ詩に託して表現してほしいと願い、作品を募集しました。

□わたしの一〇〇文字提案

「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を次のテーマから選んで、自分の考えを端的に表現した作品を募集しました。

「わたしにできるボランティア」

「わたしのふるさと」

「わたしが感動したことはやできごと」

はじめに・募集作品

目次

特別賞及び学校賞・学校奨励賞

特別賞受賞者、学校賞・

学校奨励賞受賞校……………4

日本赤十字社社長賞……………5

日本赤十字社福島県支部長賞……………6

青少年赤十字福島県指導者

協議会長賞……………10

福島県青少年赤十字賛助奉仕団

委員長賞……………11

詩「いのちの詩・愛の詩」

優秀賞……………14

佳作……………18

入選……………25

一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」

優秀賞……………28

佳作……………33

入選……………45

一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」

優秀賞……………48

佳作……………52

入選……………59

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばや

できごと」

優秀賞……………62

佳作……………67

入選……………76

作品応募校……………78

年度別応募状況・令和元年度

テーマ別応募作品数……………79

作品審査を終えて……………80

審査にご協力いただいた皆様……………82

〔表紙〕

日本赤十字社東京都支部

石田 遊星

特別賞受賞作品



日本赤十字社社長賞

「わたしのふるさと」

郡山市立富田中学校

一年 志田 柚季

日本赤十字社福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立白河南中学校

二年 渡邊 凜

「わたしにできるボランティア」

郡山市立富田東小学校

四年 大槻 惺

「わたしのふるさと」

郡山市立富田東小学校

一年 須藤 琉華

「わたしが感動したことばやでござい」

学校法人松韻学園福島高等学校

一年 紺野 美礼

青少年赤十字福島県指導者
協議会長賞

「わたしが感動したことばやでござい」

須賀川市立阿武隈小学校

六年 岡部 広哉

福島県青少年赤十字賛助
奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

郡山市立富田東小学校

三年 林 咲空

学校賞

郡山市立富田東小学校

学校奨励賞

伊達市立堰本小学校
郡山市立片平小学校
須賀川市立稲田小学校
相馬市立磯部小学校
双葉町立双葉北小学校
白河市立白河第二中学校

日本赤十字社 社長賞

「わたしのふるさと」

郡山市立富田中学校 一年 志田 柚季

私は吹奏楽部。

練習に励む三階の教室。

窓から、抜けるような青空を見る。

西会津のキャンプ場や磐梯山のゲレンデの空。

楽しい思い出が蘇る。

この美しい福島空を感じ、

今日も私は、

クラリネットの音色に想いをのせる。

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立白河南中学校 二年

渡邊

凜

お父さんはうるさいし

お母さんも怒る

妹とは喧嘩なんて日常茶飯事だ

でも

一緒にいると

自然と笑みがこぼれてくる

なんだかんだあるけど

好きなんだな

「わたしにできるボランティア」

郡山市立富田東小学校 四年 大槻 惺

近所の、一人ぐらしのおばさんがけがをして、

重いものを持てなくなった。

だから、夏休みの間、ゴミ出しを手つだった。

小さなボランティアだけど、役に立ってうれしかった。

ボランティアの機会は、意外と近くにあることを知った。

「わたしのふるさと」

郡山市立富田東小学校 一年 須藤 琉華

ままにきいたこと

ままは、しんさいで、ふるさとからひなんしました。

そして、かせつじゅうたくで、わたしがうまれた。

わたしのふるさとは、どこになるの？

「わたしが感動したことばやできごと」

学校法人松韻学園福島高等学校 一年 紺野 美礼

東日本大震災の日、地面が大きくゆれて、

当時小学一年生の私は怖くて怖くて泣いた。

そのとき左手がぎゅっと温かくなった。

祖母の手だ。

はなれないよう私もぎゅっと握った。

祖母の手は今でも温かい。あのときの手だ。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「わたしが感動したことばやできごと」

須賀川市立阿武隈小学校 六年 岡部 広哉

夏休み、久しぶりに会った祖父母。

いつの間にか二人の身長をぬかしていた。

あいかわらずの笑顔で祖母が言う。

「今、私がしてあげられることは何でもしてあげる。

そのかわりに、大人になったら、お母さんに恩返しをしてね。」

おばあちゃん、まかせて。

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

郡山市立富田東小学校 三年

林

咲空

ぼくがうれしいこと

宿題が少ない時

夕ごはんがハンバーグの時

お兄ちゃんとなかなおりした時

テストでほめられた時

ごほうびをもらった時

でも一番うれしいのはね、

お母さんがわらってだっこしてくれた時なんだ。

詩
「いのちの詩・愛の詩」



「いのちの詩・
愛の詩」

優秀賞

須賀川市立柏城小学校

三年 小室 楓香

南相馬市立八沢小学校

六年 遠藤 颯大

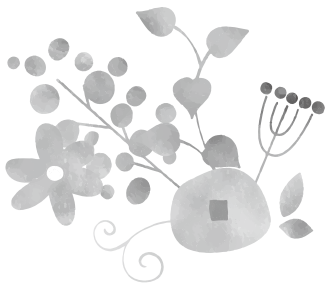
学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

一年 吉田ちなつ

学校法人松韻学園福島高等学校

一年 武士 菜種

二年 佐々木 響



「いのちの詩・愛の詩」優秀賞

須賀川市立柏城小学校 三年 小室 楓香

人に親切にしたことは覚えているのに、
してもらったことは忘れっぽくて、

「ありがとう」と思ったことを、

毎日毎日書くことにした。

そしたら、感謝することのあまりの多
さに驚いた。

「恩返し」そんな気持ちで生きていきたい。

南相馬市立八沢小学校 六年 遠藤 颯大

「大丈夫だよ」って

肩をポンとたたかれた

こぼれていた涙がずっと止まって

心がぽっとあたたかくなった

ありがとう

やさしくされると

やさしい気持ちになるんだね。

ぼくもやさしくできる人になりたい。

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 一年

吉田ちなつ

東日本大震災から三年経った日、

家族で被災地を訪れた。

津波の影響で形を無くした小学校を見て、言葉がでなかった。悔しかった。

でも、青々とした海から静かに風が吹き、私は、きっと変えられると、心の奥で決心した。

学校法人松韻学園福島高等学校 一年 武士 菜種

私のお兄ちゃんは

亡くなるまえに

お父さんとお母さんに

妹を買ってきてあげる

そう言ったそうだ：

その一年後に私が生まれた

お兄ちゃんがくれた命、

大切に生きていくよ

学校法人松韻学園福島高等学校 二年 佐々木 響

「大丈夫？」

日本で心配された。

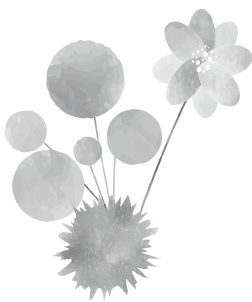
「大丈夫？」

外国で期待された。

世界中から注目されている私たちのふるさとは、確実に、順調に成長を遂げている。

「大丈夫。」

私は胸を張ってそう言えた。



「いのちの詩・
愛の詩」

佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 渡辺 龍久
二年 海野 弥生
六年 渡邊 花菜

郡山市立片平小学校

四年 柳田 碧唯

郡山市立富田東小学校

一年 小林龍之介
一年 佐藤 璃空
一年 吉田 千紗
二年 小松 彩
二年 今泉 心響
三年 安田 由翔
三年 渡邊 碧紀
六年 今村 心霞

須賀川市立阿武隈小学校

二年 阿久津愛美
二年 橋本 莉々
五年 小林和乃佳
六年 石澤 果怜
六年 西間木ひな

須賀川市立大森小学校

一年 関根 尚眞
四年 笠原 美来

相馬市立磯部小学校

二年 鎌田 旭

須賀川市立第三中学校

一年 永塚 光莉

玉川村立泉中学校

三年 溝井 優太

福島県立白河旭高等学校

一年 二宮 宏斗



『いのちの詩・愛の詩』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 渡辺 龍久

なつやすみにザリガニをそだてたよ。

がっこうでみつけたザリガニだよ。

すいそうとおうちをかってだいにだいにそだてたよ。

えさをよろこんでたべておおきくなったよ。

ぼくもなんでもたべておおきくなるぞ。

福島市立福島第一小学校 二年 海野 弥生

わたしのいとこ

生まれたばかり

ゆびは細くて手は小さい

足はわたしのゆびくらい

だっこをすると

ふわふわやわらかくて

つぶれてしまいそう

たいせつないのち

すくすく大きくなあれ

福島市立福島第一小学校 六年 渡邊 花菜

ゲームのデータが全部消えている。

犯人はわかっている。

弟だ。

怒りがふつつつとこみ上げる。

私は思わず弟をぶった。

弟が泣いた。

それでも怒りはおさまらなかった。

次の日目がさめるととなりで弟がねていた。

私の大切な弟。

心の中で「ごめんね。」と言った。

郡山市立片平小学校 四年 柳田 碧唯

じいちゃんに会いたいな。

お空の上で何してるかな。

さびしくないかな。

ぼくが、がんばって元気パワーを送るよ。

いつも笑顔でいてね。

お空が笑顔になるといいな。

郡山市立富田東小学校 一年 小林龍之介

「ねえ、ママ。」

ぼくは、一にちになんかいう。

とくにりゆうはないんだけど。

ただ、ママといっしょにいたいだけの、あまえんぼうのぼく。

「ねえ、ママ。」

いつもありがとう。

郡山市立富田東小学校 一年 吉田 千紗

いきるためには

すききらいをしない

いきるためには

いっばいねる

いきるためには

げんきにあそぶ

いきるためには

いっばいわらう

いきるってたのしい

なんでもたべるぞ

郡山市立富田東小学校 一年 佐藤 璃空

ぼくのおとうとに、

「どうしてママのところに来たの？」ときくと、

「ぱぱとママとにいが、すきだから」

とこたえます。

きょうも、みんなでまくらをならべてねます。

そのじかんが、ぼくは、だいすきです。

郡山市立富田東小学校 二年 小松 彩

わたしは、まいあさトマトに水をあげている。

水をあげると元気になる。そして真っ赤にそだっていく。しょ

くぶつも人間と同じで、生きているんだとかんじる。

今日も、わたしはトマトに水をあげて、学校へ行く。

郡山市立富田東小学校 二年 今泉 心響

ぼくはまだかなしみをしらない。なぜならぼくのたいせつな人は、いつもそばにいる。

となりにおねえちゃん、目の前にはおかあさん、うしろでみまもるおとうさん。

会えなくなったら……ぼくはむねがくるしくなった。

郡山市立富田東小学校 三年 渡邊 碧紀

ひいばあちゃんが、去年の冬に死んだ。

畑仕事が好きなんだった。

耳が遠かったけど、野菜の話は、ちゃんと聞こえてた。

夏にお線こうをあげに行った。

写真のひいばあちゃんは笑ってて、カラフルな野菜がかざられていた。

郡山市立富田東小学校 三年 安田 由翔

ぼくが出かけるとき、「いってらっしゃい、気をつけてね。」って、お母さんはいつも言う。

今日も一日、ぶじで帰ってこられるように、おまじないなんだって。

だからぼくは、今日も「はい、いってきます。」ってでかけるよ。

郡山市立富田東小学校 六年 今村 心霞

横を見ると、

家族がいる。

周りを見ると、

友達がいる。

助け合っていると、

仲間が出来る。

だから私は、

いつでも幸せ。

「生きる」って、

すばらしい。

須賀川市立阿武隈小学校 二年 阿久津愛美

「だっこして」
はすかしいけど
おとうさんとあそぶと体がよろこぶよ。
そーっと、おとうさんのかおを見たら目があっておとうさんも
ニコニコ。
わたしは、生まれてきてよかったと思う。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 小林和乃佳

昨日の幸せは、
あれだった。
今日の幸せは、
これだった。
明日の幸せは、
なんだろう。
毎日幸せはかならずある。
幸せを見つけないが
くらせることが幸せだ。

須賀川市立阿武隈小学校 二年 橋本 莉々

しんさいを知らないわたしも
まい年 線りようけいをつけたり のどのけんさをうけたりする
まだ おわってないのかな とふあんになる

須賀川市立阿武隈小学校 六年 石澤 果怜

金魚のリップ
ドレスのような尾びれでひらひらおどる
ある日リップが
転ぶく病にかかってしまった
体がぶかぶか浮かないように
必死にもがいている
パパが塩を入れてあげて元気になるようみんなで祈った
次の日リップが
ドレスのような尾びれで元気におどっていた
みんなニコリ
いつまでもリップのおどりをながめていた

須賀川市立阿武隈小学校 六年 西間木ひな

夕暮れ時。
姉と犬と散歩道。
リードが外れ犬にげた。
夢中で追いかけて、やっこの思いで捕まえた。
ホッと一息つくと田んぼ道。
稲をよく見たら、もう稲穂ができている。
秋の収穫が楽しみだ。

須賀川市立大森小学校 一年 関根 尚眞

いちねんせいになった。まだなれないがっこう。どこか、ふ
あんもある。でも、
「おはよう」のともだちのひとことで、たのしいいちにちが
はじまるんだ。
だからぼくも「おはよう」ってげんきをあげたいな。

須賀川市立大森小学校 四年 笠原 美来

スズメウリのなえを植えました。
毎朝、ベランダへ行ってみると、つるがぐんぐんのびていき
ました。小さな小さなスイカみたいな実がたくさんできました。
なんだか、赤ちゃんが育っていくみたいで、うれしくなりま
した。ミルクの代わりにたくさん水をあげました。

相馬市立磯部小学校 二年 鎌田 旭

ともだちからもらったかぶと虫のよう虫。ケースの中の土に
もぐっている。
「生きているのかな。」
ぼくは、しんぱいになって、ケースをひっくりかえした。
くねくね。あっ元気だ。
ぼくはまた土のふとんをかけなおした。

須賀川市立第三中学校 一年 永塚 光莉

いのちは大切なもの
感情を表す事ができる
いのちは大切なもの
前へ進む事ができる
いのちは大切なもの
夢をもつ事ができる
いのちは大切なもの
希望をもつ事ができる
いのちは大切。いらないなんて言わないで

玉川村立泉中学校 三年 溝井 優太

待ってくれる人がいる
想ってくれる人がいる
きいてくれる人がいる
手伝ってくれる人がいる
祈ってくれる人がいる

私のために
ありがとう
あなたの愛を
ありがとう

福島県立白河旭高等学校 一年 二宮 宏斗

「ありがとう」
このひと言で
がんばれる
「また、あした」
このひと言で
次の日が
待ち遠しいと
夜、目をとじる
何気ない言葉が
心を支えてくれる

『いのちの詩・愛の詩』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

六年 二瓶 吾妻
六年 高橋咲良々

郡山市立芳賀小学校

三年 村上 光希
五年 林 結楓

郡山市立薫小学校

三年 小西 唯月
五年 峯 大稀

郡山市立富田東小学校

一年 岡部愛佑美
一年 相原 隆岐

三年 渡邊 心寧
三年 荒川 琉穂

三年 穴澤 瑠海
四年 横山來唯斗

五年 澤田 莉奈
五年 佐藤 虹雅

五年 芳賀 来星
五年 橋本 彩音

五年 吉田 紗雪
五年 前林里央梨

五年 林 春琉
六年 宗像 慧

六年 高野 優里
六年 中村 陽葵

六年 紺野 萌陽

郡山市立桑野小学校

五年 緑川 響

須賀川市立稲田小学校

六年 味戸 翔

須賀川市立阿武隈小学校

六年 田村 隼真

須賀川市立柏城小学校

三年 田代 佳向
三年 想田 丈琉

四年 有馬 百恵
六年 永山 栞

須賀川市立大森小学校

一年 榊枝 凜
三年 渡邊くるみ

四年 関根 怜那
四年 榊田 栄太

五年 関根 陽祐

鏡石町立第一小学校

一年 入澤 那実
三年 砂川 碧音

天栄村立大里小学校

六年 石塚 愛優

小野町立浮金小学校

一年 宗像 麻奈

白河市立白河第五小学校

二年 白岩 芽依
二年 菊地 結斗

棚倉町立山岡小学校

六年 生方 梓美

新地町立新地小学校

一年 齋藤 奏人

相馬市立日立木小学校

六年 横山 斎

須賀川市立第三中学校

一年 箭内 結愛
二年 角田 莉緒

玉川村立泉中学校

一年 小林 未来

白河市立白河第二中学校

一年 及川 花音

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

一年 渡邊 陽菜

福島県立白河旭高等学校

一年 荒川 友賀

一年 渡邊 敦大

一年 添田 乙葉

一年 石井 伶佳



一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」



「わたしにできる
ボランティア」

優秀賞

郡山市立富田東小学校

五年 伊東 和心

五年 吉田ひより

郡山市立朝日が丘小学校

二年 片寄 翔斗

須賀川市立稲田小学校

六年 岩崎江里子

須賀川市立大森小学校

四年 関根 颯良

玉川村立玉川第一小学校

五年 須藤 由衣

須賀川市立第三中学校

一年 野沢 嶺

福島県立平支援学校

二年 四ツ谷美鈴



「わたしにできるボランティア」優秀賞

郡山市立富田東小学校 五年 伊東 和心

お母さんだって
産まれて、育てられた
でも今は
お母さんが
おじいちゃんを
世話する
私も手伝う
そうやって
人はみんな
支え合って生きている

郡山市立富田東小学校 五年 吉田ひより

小さいころから、私は点字を見つけた
り、さわったりするのが好きだ。
私は本も好きだから、目の不自由な人
のために、将来、点訳ボランティアがし
たい。
そして、一緒に色々な本を、楽しむこ
とができたなら、私はうれしい。

郡山市立朝日が丘小学校 二年 片寄 翔斗

歩いていたら

車いすの人が

こまっていた

ぼくにはなにが

できるかな

そうだ！

ぼくは

こえをかけられる

こまっていること

ありませんか？

須賀川市立稲田小学校 六年 岩崎江里子

おじいちゃん、喜んでくれるかな。

私には、会津に曾祖父がいる。

なかなか会いに行けないので、葉書を

書く。

曾祖父の喜ぶ顔が目には浮かび、胸が温か

くなる。

少しでも生きがいになることを願っ

て、また今日も葉書を書く。

須賀川市立大森小学校 四年 関根 颯良

ぼくたちは、「地球にやさしく、人にやさしく」というテーマのもとエコ活動に取り組んでいる。

ボトルキャップ八百こが、一人分のワクチンに代わるそうだ。ちらしを作って呼びかけたら、地いきの人たちも協力してくれるようになった。
すてきな町だと思った。

玉川村立玉川第一小学校 五年 須藤 由衣

小さな箱。その中には、がんばってね。

元気になってね。

大丈夫だよ。

と、たくさんさんの温かい思いがたまっている。それが笑顔につながっていく。
だから私も、少しずつだけれど募金を続けよう。

相手を思う優しい心をそえて。

須賀川市立第三中学校 一年 野沢 嶺

祖母が施設入所した。

開かずの間だった部屋を含め、片付け

を手伝った。何ヶ月もかけて重いゴミの

運搬や部屋の掃除をし、一つ一つから祖

母の歴史を感じた。

今までお世話になった恩返しができた

ようで、うれしかった。

福島県立平支援学校 二年 四ツ谷美鈴

私には、気になっているボランティア

があります。病気で苦しんでいる人に髪

を寄付するヘアドネーションです。

私は、三年後、成人式があります。成

人式は自分の髪をゆって参加したいです。

その後、私の髪の毛を必要とする人に寄

付したいです。

「わたしにできる ボランティア」

佳作

福島市立福島第一小学校

二年 田村 優磨

六年 新田ひより

郡山市立片平小学校

五年 吉田 愛蓮

郡山市立芳賀小学校

五年 岡部 悠大

六年 須田 竜馬

六年 吉田 暖和

郡山市立薫小学校

一年 佐藤 芽依

郡山市立富田東小学校

二年 石澤 遙真

二年 加藤 愛奈

二年 會田 絢望

四年 伊藤 歩

四年 小林 世愛

五年 佐藤 笑子

五年 松田 倅絆

六年 小林りおね

須賀川市立稲田小学校

六年 溝口 悠真

須賀川市立小塩江小学校

四年 吉田 陽稀

須賀川市立阿武隈小学校

五年 佐藤 優樹

五年 鈴木 雄太

須賀川市立柏城小学校

四年 柳沼 暖

鏡石町立第一小学校

三年 渡部 瑠依

五年 矢内 徠耀

玉川村立玉川第一小学校

五年 佐藤 蒼大

五年 田母神寧々

平田村立蓬田小学校

六年 石塚 龍騎

白河市立白河第五小学校

六年 大島 菜摘

南会津町立松沢小学校

六年 杉原 健太

相馬市立大野小学校

六年 佐藤 侑稀

相馬市立中村第二小学校

六年 小幡 遥翔

六年 四方 聡

相馬市立飯豊小学校

三年 太田 晶斗

相馬市立磯部小学校

六年 狩野 良悟

相馬市立日立木小学校

三年 亀岩 未愛

六年 松下 陸來

須賀川市立第三中学校

一年 福田 樹

玉川村立泉中学校

一年 石井なつみ

白河市立白河南中学校

二年 沼田 星那

三年 深谷 紗来

西郷村立西郷第一中学校

一年 真船 はな

福島県立白河旭高等学校

一年 安達 大凱

一年 長田 歩海

一年 太田あさひ

『わたしにできるボランティア』佳作

福島市立福島第一小学校 二年 田村 優磨

しごとにおかう人に

「おはようございます」

と元気にあいさつをしたなら「おはようございます」とかえしてくれた。かえってきたあいさつでばくもうれしいきもちになった。あいさつは元気のみなもと。

福島市立福島第一小学校 六年 新田ひより

わたしは、英語を習っている。

来年は日本でオリンピックがある。わたしは、たくさん英語を練習して、困っている外国の方を助けたい。そして、日本はとてもいい国だと伝えたい。

郡山市立片平小学校 五年 吉田 愛蓮

私は、地球温暖化を知って、このままだと、大変な事になってしまうと思い、食べ物を残さない、ごみを分別する、などという事を今までより心がけます。

私達が、やらなければならないと思います。

郡山市立芳賀小学校 五年 岡部 悠大

ただ一つのゴミ。それをだれかがひろうことは小さいことかもしれない。でも、それをみんなが協力することで大きくなる。今日の日本の人口は、約一億二千万人だが、一人が一つひろえば、どうだろう、考えてみたら大きくなる。

郡山市立芳賀小学校 六年 須田 竜馬

今、ぼくの学校では、ボトルキャップ集めで、恵まれない国の子供を病氣から救うワクチンにする運動をしています。キャップ八百個で一人分のワクチンになるようです。

一人でも多くの人を学校生徒みんなで救えるといいです。

郡山市立薫小学校 一年 佐藤 芽依

わたしは、小がっこうにゆうがくまえに、かみのけをききました。

びょうきの子のためになるとききました。

またきふをするために、かみのけをのばしています。

郡山市立芳賀小学校 六年 吉田 暖和

僕の曾祖母は、車いす生活です。車いすを使うことで自由に動けるようになる人もいます。

以前の学校で、キャップ集めで、車いすを送ったことがあります。ぼくにもボランティアができ、よろこぶ人がいてとてもうれしいです。

郡山市立富田東小学校 二年 石澤 遙真

ぼくにできること

おちているゴミをひろうこと

こまっている人をたすけること

すこしずつしかできないけど

じぶんからすすんで

できる人になりたいと思う

郡山市立富田東小学校 二年 加藤 愛奈

さんぼしてたら、ゴミがおちてたよ。だから、ゴミをひろって
おうちのゴミばこにすてたんだ。そしたら、なんだか、気も
ちがすーってよくなった。
みんなもひろってみようよ。きっと、今よりきれいな町にな
るから。

郡山市立富田東小学校 四年 伊藤 歩

高れい化が進む今、私の家にも近所にも、お年寄りがいます。
ちよっと様子を見てみると、何かこまっていそうな時もある。
でも、なかなか声はかけられない。今度こそ、声をかけて
みよう。
「大丈夫ですか。」

郡山市立富田東小学校 二年 會田 絢望

お母さんはいつもいそがしい。私になにかできないか考える。
時どき「少し休むね。」とよこになる。私は「ゆっくり休ん
でね。」と言って、おかたづけをする。
これが私にできるお母さんへのボランティア。

郡山市立富田東小学校 四年 小林 世愛

公園で、自転車に乗っていた小さな男の子がころんだ。
いたそうにひざをおさえる男の子と、心配するお父さんに、
ばんそうこうをわたした。
これもボランティアなのかな？
ありがたい言葉で自信がついた。

郡山市立富田東小学校 五年 佐藤 笑子

わたしは、学校でボランティア委員会に入っています。
ボランティアであいさつをしていると、みんな大きな声でか
えしてくれます。このことって、わたしを受けいれてくれてい
るってこと？

そんな世界がひろがるといいね。

郡山市立富田東小学校 六年 小林りおね

東日本大震災、
はつきりとは
おぼえてない
でも、「こわかった」
それはわすれてない
だから、同じ思いをしている人の力に
少しでもなりたい
助けてもらったから
こんどは助きたい

郡山市立富田東小学校 五年 松田 倅絆

わたしにできるボランティアは、災害でひなんした人たちに、
フラダンスで元気や笑顔をとどけること。

冷めきった顔を、お花でつつみこんだような笑顔にし、勇気
と希望をフラダンスでとどけるといいうすてきなこと。

須賀川市立稲田小学校 六年 溝口 悠真

私の母は、私を産む時輸血をした。若い時何回も献血をして
いたので、「もううばかりにならなくて良かった。」と言った。
どうなるか分からない未来の誰かのため、自分のために、私
も将来献血に行きたい。

須賀川市立小塩江小学校 四年 吉田 陽稀

ぼくが出来る事。それは、元気に笑顔であいさつする事だ。
元気な声でにっこり笑って、

「おはよう！」

と、言うだけで、周りもパツと明るくなる。

これからも笑顔をたくさん届けたい。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 鈴木 雄太

ボランティアに参加している人を見て、その一生けん命な姿
が、かっこいいと思った。

ぼくにできるボランティアは何だろう。ごみひろいならでき
るかな。

一人が十人、十人が百人とひろがって、きれいな世界になる
といいな。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 佐藤 優樹

学校の帰り道に、ごみが落ちていることがある。ぼくは、気
になるが、それを見ても気にならないことが一番問題だ。ぼく
がひろえば、たくさんの方が気付くかな。

小さなことだけど、みんなの心が動けばいいな。

須賀川市立柏城小学校 四年 柳沼 暖

ぼくが母の方の祖父母に会いに行くと、喜んでくれて、帰る
時に

「またボランティアに来てね。」

と言われる。これがボランティアと言うならば、いつだってで
きそうだ。

また行くからね。

鏡石町立第一小学校 三年 渡部 瑠依

私が今できるボランティア。それは、ヘアドネーション。かみの毛をのばして、病気でかみの毛がなくなった人に、私の大切なかみの毛をあげたいです。

だから、シャンプーが大へんだけど、毎日きれいにとかしています。

玉川村立玉川第一小学校 五年 佐藤 蒼大

ぼくは、家の近所の一人ぐらしをしている九十さいのおばあちゃんに、毎日、「元気ですか。」と声をかけます。話をすることの喜びをわすれてほしくないためです。

もちろん災害時は、一早く助けに行きます。地域こうけんです。

鏡石町立第一小学校 五年 矢内 徠耀

私は、四年の時から、夏休みに町のサマーボランティアに参加しています。お菓子作りや、幼稚園や、デイサービスに行っています。

こういった長期の休みを利用して、これからも、私のできるボランティアをしていきたいです。

玉川村立玉川第一小学校 五年 田母神寧々

「正しいことをするか、親切なことをするか、どちらかを選ぶときには、親切を選べ。」これは私の好きな本の中の言葉です。

この言葉こそ私にできるボランティアだと思っています。私も親切を実行していきたいです。

平田村立蓬田小学校 六年 石塚 龍騎

街のごみ拾い
公共施設の
トイレ清掃
たった一つの
小さなことでも
誰かの役に立てば
それはそれで
ボランティア
ぼくができる
ボランティア

白河市立白河第五小学校 六年 大島 菜摘

私は、介護施設等で和太鼓を披露しています。患者さんやスタッフの方々に元気になってもらいたくて、日々練習しています。演奏後は、大きな拍手をもらえると嬉しくなります。これからも、和太鼓で元気と笑顔を届けます。

南会津町立松沢小学校 六年 杉原 健太

ぼくの父は、消防団員です。地域で火事や災害が起こると、すぐに現場にかけつけ、地域の人々の安全・安心のために活動します。
ぼくも大きくなったら、父と同じ消防団に入り、地域の人々の安全・安心のために頑張ります。

相馬市立大野小学校 六年 佐藤 侑稀

私は、十六才になったら献血をしたいと思っています。
病気やけがで血液が必要な人の役に立ちたいです。献血をするには、自分が健康じゃないとできないので、体調管理に注意して、生活したいです。

相馬市立中村第二小学校 六年 小幡 遥翔

「海開きの花火すごかったね。」

ぼくは自分がほめられているかの様にうれしくなった。この日のためにお父さん達は、会議を重ね、ボランティアとして準備を進めてきたからだ。

ぼくも将来、お父さんの様な立派な大人になりたいと思う。

相馬市立中村第二小学校 六年 四方 聡

よく野球をした公園

自転車で走り回った公園

草がたくさん生えた公園

お世話になった公園に

ありがとう

感謝の気持ちを込めて

草むしり

相馬市立飯豊小学校 三年 太田 晶斗

父と海につりにいったとき、かもめをみておどろいた。

口からつり糸が出てたり、足に糸がからんであるけなかったり、足がかたほうなかったかもめをみて、かわいそうと思い、まわりのつり糸をひろいました。

相馬市立磯部小学校 六年 狩野 良悟

ぼくができるボランティアは、防災林植樹です。今年も植樹を全校生で行いました。

ぼくが植えた小さな松の木も、五十年後、百年後の磯部の人達を守ってくれると思います。これからも植樹を続けて緑を増やしたいです。

相馬市立日立木小学校 三年 亀岩 未愛

どこでも気がるに買うことができるペットボトル。ふたをしめれば持ち運びも簡単。

便利なものだけど、私は水とうを使う。洗って何度でも使えるエコ活動。これでゴミもでないよ。

須賀川市立第三中学校 一年 福田 樹

ぼくは、いろんな人たちにあいさつをするという、独自のボランティアをしている。たとえあいさつを返してくれなくとも、がんばって、須賀川の人々を笑顔にするため、あいさつしています。

これからもつづけていきます。

相馬市立日立木小学校 六年 松下 陸來

かんがえてみよう

今、ぼくができることを

ゴミ拾い、ぼ金、エコ

地球にやさしく

心にもやさしい

一人一人ができること

少し気にかけてみよう

これからの未来へ

ぼくからはじめよう

玉川村立泉中学校 一年 石井なつみ

私ができるボランティアは、周りの人たちを笑顔にすること。

笑顔でいれば、幸せな気持ちになる。笑顔でいると、楽しく感じる。

だから、私は、みんなを笑顔にするために、笑顔でいようと思う。

白河市立白河南中学校 二年 沼田 星那

私は、さまざまな施設へ行って、歌を届けるボランティアをしたことがある。最初は少し怖かった表情が、私達が歌い出すと、だんだん柔かくなっていくなを見て、歌の力はすごいと思った。

また行きたいと思える一日であった。

白河市立白河南中学校 三年 深谷 紗来

私たちは、高齢とふれ合うことのできる場へ、ボランティア活動に行った。一緒に歌を歌ったり話したりして、とても楽しむことができました。

「ひざの痛みも忘れられたよ。」という言葉がとても嬉しくて、心に残りました。

西郷村立西郷第一中学校 一年 真船 はな

それは、ヘアードネーションぐらいだ。最初にヘアードネーションを知った時から、人の役に立てるならと、かみをのばし始めた。何年ものばし、かみをあげることができた。

人の役に立つことができ、うれしかった。

福島県立白河旭高等学校 一年 安達 大凱

今日、僕は野球の全校応援に行った。そして、ある幕がかけられているのを見つけた。

「献血は十六才から」というものだ。

僕は驚いた。献血は大人がやるものだと思っていた。僕だっ
て誰かの大きな力になれることを知った。

福島県立白河旭高等学校 一年 長田 歩海

私は十六歳になり、二百ミリリットルの献血に協力できるようになりました。必ず協力したいと思います。

私の少しの血で誰かの大切な「命」を救うことができるから。

福島県立白河旭高等学校 一年 太田あさひ

私は「ヘアドネーション」活動に参加しました。髪の毛がな
い人のウィッグを作るため、自分の髪の毛を寄付しました。

これからも、自分にできることを探し、積極的に参加し、誰
かを笑顔にできたらうれしいです。



須賀川市立柏城小学校

三年 矢橋 瑛太

四年 渡辺 隼斗

四年 宗像 笑愛

五年 小橋永晴凜

五年 宗方 雄大

五年 関根 里空

六年 名越 大翼

市立大東小学校

四年 溝口 夕空

立第一小学校

一年 根本 夢羽

三年 小檜山聖菜

四年 根本 花乃

六年 有馬弘太郎

立玉川第一小学校

五年
村越
里菜

五年 吉田 征広

矢祭町立矢祭小学校

四年 金澤 心優

五年 古市 和奏

六年 生田目颯多

新地町立新地小学校

三年 伊達 愛梨

相馬市立中村第二小学校

六年 佐藤 流星

相馬市立日立木小学校

四年 谷津田莉緒

いわき市立内町小学校

六年 青柳 奈歩

須賀川市立第三中学校

一年 鎌倉 海翔

二年 藤田 結翔

二年 廣田 勝雅

二年 大平 実佑

玉川村立泉中学校

三年 須藤 香澄

三年 本多 かほ

三年 柳沼 輝

白河市立白河第二中学校

三年 近藤 奏音

西郷村立西郷第一中学校

一年 秋山 心優

南相馬市立原町第三中学校

三年 櫻井 美佳

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

一年 佐藤 陸斗

二年 神植 結

福島県立白河旭高等学校

一年 横井 茜音

一年 竹井 未来



一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」



「わたしの
ふるさと」

優秀賞

郡山市立富田東小学校

三年 遠藤しのぶ

五年 中澤 蓮

須賀川市立柏城小学校

四年 佐藤 麻由

双葉町立双葉北小学校

五年 野村 花音

玉川村立泉中学校

三年 坂本 光大

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

二年 阿部 華怜



『わたしのふるさと』優秀賞

郡山市立富田東小学校 三年 遠藤しのぶ

私の父のふるさとは、しぜんのまんげきよう。

昼はたくさん虫や花たちがワイワイおどっている。ホタルのライトで夜は星

のパーティ。

くるくる回るまんげきようみたいに、

私の心をワクワクさせる。

郡山市立富田東小学校 五年 中澤 蓮

地震の後、引っこしたお母さんのふるさと、りんごの街弘前。

りんごの木がたくさんある風景。大好き。

去年帰ってきた音楽の街郡山。歌が大

好き。

ぼくには、二つのふるさとがある。

なんか、得した気分。

須賀川市立柏城小学校 四年 佐藤 麻由

絵の具の青を出すと猪苗代湖が見えてくる。

赤を出すとまっかなりんごが食べたくなる。

なる。

緑を出するときうり天王祭に行きたくなる。

なる。

黄を出すとフラダンスがおどりたくなる。

夢がいっぱいにじ色福島だいすき

です。

双葉町立双葉北小学校 五年 野村 花音

私の故郷は帰還困難区域。

二才の時に避難し、それから一度も帰

っていない。でも、ここには、伝統芸能

や文化を守る人が、たくさんいる。

私もいつか、故郷の和太鼓チームに入

り、この町の伝統を受け継ぐ一人になり

たいな。

玉川村立泉中学校 三年 坂本 光大

鳥が鳴いている

緑があふれてる

飛行機が飛んでる

さるなしがなってる

野菜や米を育ててる

子どもが遊んでる

ずっと元気です

あの日から八年以上

経った今も元気です

わたしのふるさと

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 二年

阿部 華怜

久しぶりにふるさとに戻った。

あの頃無かったものが増えたりしてい

たから、復興に近づいていると思って

いた。

だけど、なんだか、あの頃は心地よか

った静けさが、今は寂しい静けさのよう

な気がした。

「わたしの ふるさと」

佳 作

福島市立福島第一小学校

一年 齊藤 柚花

二年 清野 陽菜

六年 高橋 涼風

郡山市立富田東小学校

三年 根本 大雅

三年 橋本 瞬亮

四年 菅野 統心

六年 佐藤 美月

須賀川市立小塩江小学校

三年 吉田 悠也

須賀川市立阿武隈小学校

五年 今野 耀時

五年 熊耳 玲那

須賀川市立柏城小学校

四年 塩田 一心

須賀川市立大東小学校

六年 秋山可南子

須賀川市立大森小学校

四年 関根 望桜

五年 渡邊 想大

平田村立蓬田小学校

六年 鈴木 優花

相馬市立飯豊小学校

三年 猪戸 幸太

相馬市立日立木小学校

五年 今野 侑並

双葉町立双葉南小学校

六年 齊藤 にこ

白河市立白河南中学校

二年 栃本 龍生

西郷村立西郷第一中学校

一年 設楽 昌舜

南相馬市立原町第三中学校

三年 工藤 凜

福島県立白河旭高等学校

一年 菅野 美桜

一年 木村 天音

福島県立平支援学校

三年 西村 美咲



『わたしのふるさと』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 齊藤 柚花

あまいもとゆきあそび。わたしは、あついなつもさむいふゆもにがてです。

だけど、なつがあついからもちあまくなります。ふゆがさむいからゆきあそびができます。

だから、わたしはあついなつとさむいふゆのふくしまがだいすきです。

福島市立福島第一小学校 六年 高橋 涼風

わたしのふるさととは福島です。

福島は山に囲まれていて何も無いけれど、人へのおもいやりや、やさしさがある。自然豊かで、空気がとてもきれいで、田舎の味の料理が、とてもおいしい。

そんな福島をわたしは誇りに思う。

福島市立福島第一小学校 二年 清野 陽菜

私は東日本大しんさいを知らない。生まれてないから。

でも知りたいと思った。だって私のうまれた町だから。大すきなふるさとだから。

ふくしまのこれからが、これまでいじょうになれるよう、すこしでも力になりたいんだ。

郡山市立富田東小学校 三年 根本 大雅

ぼくのふるさととは、まどを開けると緑がいっぱいです。

夏は、田んぼのイネが成長して風にゆられておどっています。

畑には、おいしくて、みずみずしい野さいが実っています。

ぼくは、このふるさが大すきです。

郡山市立富田東小学校 三年 橋本 瞬亮

たいせつなふるさと

ぼくが一步ふみ出すと、くもも一步ふみ出すよ。夜になると、月も一步ふみ出すよ。

ぼくが大きくなると、くもはつかめるかな。ながれ星にねがいごとをとなえると、ほんとうにかなうかな。かなったらいいなゆめ。

郡山市立富田東小学校 四年 菅野 統心

ぼくは、しょうらいどこで生活するだろう。日本のどこかかもしれないし、世界のどこかかもしれない。

どこに住んだとしてもぼくのいるふるさとは、福島だ。いつか目標を達成し帰って来るふるさとは、福島だ。

郡山市立富田東小学校 六年 佐藤 美月

昨年、北海道で福島県産の桃を見かけた。

私のじいちゃんとはあちゃんが、汗を流しながら、心をこめて作った桃も、どこか遠くの人達が食べてくれているのだろうか。

今年の桃も、甘くて、とってもおいしい。

須賀川市立小塩江小学校 三年 吉田 悠也

④春 赤くそまったサクラランボ

⑤夏 あまくておいしい桃

⑥秋 シャリシャリのなし

⑦冬 あまくてとろけるあんぽがき

ぼくのふるさとは、おいしいくだものがたくさんあるんだね。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 今野 耀時

ぼくのふるすとは、なみえ町だ。同じ福島県なのに、どこよりも遠くの地に思える。

今は帰ることができないが、いつかは帰れると信じている。いつか帰って、また、ぼくが小さいときにいた家ですごしたい。

須賀川市立柏城小学校 四年 塩田 一心

ぼくのふるすとは、たくさん元気くれます。おいしいきゅうりやももを食べるとパワーが出るし、花火大会はきれいでうっとりします。

今年は、松明あかしで太こたたいで、ぼくからも、みんなにパワーをおくりたいです。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 熊耳 玲那

呼んでもさけんでもとどかない。泣いても、もがいてももどれない。ふるすとは遠く、遠のいて、余りにも近くて、遠いふるさと。

あのふるすとは、美しい海辺。心の底のなみだの湖にある。あの美しい海辺は、本当に美しかった。

須賀川市立大東小学校 六年 秋山可南子

私のふるすとは、大好きな宇津峰山と阿武隈川があります。山は私がどこにいても見守ってくれていて、川は、私が出かける時、いつてらっしゃい・おかえりをしてくれます。

私のふるすとは、大きなお家のようです。

須賀川市立大森小学校 四年 関根 望桜

教室で勉強していると、ときどきたぬきやキジが顔を出す。私たちと目が合うと、そっと山へ帰って行く。

私たちの住んでいる所は、大きな森の中。動物たちも私たちも、仲よく元気にくらせる所。いつまでも、そんなふるさとを大切にしていきたい。

平田村立蓬田小学校 六年 鈴木 優花

都会に泊まった。楽しいはずなのに、さびしい。いつもなら、静かな空間から虫の大合唱が聞こえる。窓をのぞけば緑が見える。優しさがあふれる、自分のふるさと。安心して帰れるふるさと。

やっぱり平田が好きだ。

須賀川市立大森小学校 五年 渡邊 想大

夏の夜、ぼくの家のもとからホタルが見える。毎日ホタルを見るとホッとする。ホタルはきれいな所にしかないという。

ぼくの家の子の周りのホタル。ぼくが大人になったら、ぼくの子どもにも見せたいな。

相馬市立飯豊小学校 三年 猪戸 幸太

ぼくの名前は「幸太」

幸せをいっぱいもって、みんなに、分けてあげられるようにって意味があるんだって。

ぼくが生まれたのはしん災からすぐあと。いっぱい泣いたこの場所だからぼくがみんなを笑顔にする。

相馬市立日立木小学校 五年 今野 侑並

ぼくのこきようは福島県の相馬市です。相馬は、夏になると、相馬野馬追いで馬のにおい、秋になると、稲刈りのにおい、冬になると、あまいイチゴのにおいがします。

相馬は思い出のにおいが残る自まんのこきようです。

白河市立白河南中学校 二年 栃本 龍生

原発事故から八年、僕は故郷をよく覚えていない。五才になったばかりだった。

あれから八年、今、白河で家族と一緒に新しく歩むことができています。沢山のひとと出会い沢山の勇気をもらった白河が故郷になったから。

双葉町立双葉南小学校 六年 齊藤 にこ

双葉町。それは私のふるさと。山と海があって自然が豊かな町。海の幸、山の幸が豊富で食べ物もおいしい。

今は帰れないけれど、大人になったら、自分の目で見てみたい。緑色に輝く私のふるさと双葉町を。

西郷村立西郷第一中学校 一年 設樂 昌舜

今年の夏、友達と初めて釣りに行った。ルアーを投げ入れ、魚が食いつくのを待つ。あの震災の時は釣りのことなんて考えられない人はいなかっただろう。

この、魚を待つ時間がずっと続けばいいと思った。

南相馬市立原町第三中学校 三年 工藤 凜

当時小学六年生だった頃、熊本で大きな地震がおきた。東日本大震災の復興でもらったくまもんTシャツ。少しでも助けになればいいと思い、学校全体で募金活動を行った。離れていても、見えない絆が感じられた。

福島県立白河旭高等学校 一年 木村 天音

今ごろみんなはどこにいるのか。そんな疑問が頭にうかぶ。たった一つの地震で、私たちは引き離された。悲しい現実。でも、私のふるさが復興に向かっていているように、私も前に進み明るい未来へ歩みたいと思う。

福島県立白河旭高等学校 一年 菅野 美桜

あの日の震災があってから、大人たちは福島は危険だと言うようになった。でも気づいてほしい。危険にしたのは誰。大好きな場所を奪ったのは誰。お願い、これ以上汚さないで。お願い、私の声を無視しないで。

福島県立平支援学校 三年 西村 美咲

わたしのふるさとは、いわきです。いわきのゆう名なものは、まっかなトマト、青いさかな、みどりのよつのはちゃん、いろいろなし、ピンクのイオンモールです。いわきは、赤、青、みどり、ちゃいろ、ピンクいろいろな色がある、わたしのたのしいふるさです。

「わたしのふるさと」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

二年 小野寺由真
五年 片平一之介
六年 江口 瞳
六年 本田 裕輝
六年 佐藤 環

郡山市立富田東小学校

郡山市立芳賀小学校

四年 林 咲人
五年 須永 葵仁
六年 二瓶 紗耶
六年 久保田 晴
六年 小泉 綾

須賀川市立阿武隈小学校

五年 深谷 結菜
五年 関根悠姫奈
六年 鈴木あやめ
六年 齊藤 祐司

新地町立新地小学校

一年 駒木根幸希
五年 高野 明飛

相馬市立中村第二小学校

一年 山崎 太陽
六年 菊地 理央

相馬市立飯豊小学校

三年 佐藤 莉杏
三年 木村 彪

相馬市立磯部小学校

六年 佐藤 舞依

相馬市立日立木小学校

一年 太田 侑臣
二年 金澤 蓮

南相馬市立高平小学校

一年 郡 璃飛斗

須賀川市立西袋第二小学校

四年 佐藤 嘉誠
六年 鈴木 莉緒
六年 安齋 遼大
六年 木戸 裕武
六年 佐久間日向
五年 光井 美裕
五年 熊田 翔梧
四年 熊田 翔梧
四年 遠藤 有晃
四年 荒井 大和
四年 安田 凌
三年 齋藤ひより

須賀川市立稲田小学校

五年 水野 尊琉

須賀川市立大森小学校

五年 加藤 星南

須賀川市立柏城小学校

六年 鈴木 るな

鏡石町立第一小学校

六年 熊耳 円花

平田村立蓬田小学校

三年 吉田 秋斗
四年 若松 蒼空
六年 瀬谷 祥平

矢祭町立矢祭小学校

五年 本田 悠馬
六年 菊池 史夏

須賀川市立第三中学校

一年 有我 怜

二年 戸梶 璃音

二年 滝浦 美雨

玉川村立泉中学校

一年 阿部 有真

三年 真野目 暉

三年 須藤 久雅

三年 首藤 煌河

三年 湯澤 一颯

白河市立白河南中学校

三年 黒沢 行博

学校法人東稜学園福島東稜高等学校

二年 菅野 海夕

福島県立白河旭高等学校

一年 橋本 綺羅

一年 遠藤 彩美

学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校

一年 東條 和香

福島県立平支援学校

三年 高木啓一郎



一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばやできごと」



「わたしが感動した
ことばやできごと」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

一年 国分 大士

郡山市立富田東小学校

一年 渡邊優々子

一年 菅野 紗希

相馬市立飯豊小学校

三年 久米 元輝

相馬市立日立木小学校

二年 松本 蓮

郡山ザベリオ学園中学校

一年 鈴木 眞瑚

西郷村立西郷第一中学校

一年 小針 陽生



「わたしが感動したことばやできごと」優秀賞

福島市立福島第一小学校 一年 国分 大士

「だいじょうぶだよ」

おかあさんが、そういつてせなかをさ

すってくれると、こころがおちついて、

だんだんげんきがでてる。

ぼくも、こまった人がいたら、やさしく

「だいじょうぶだよ」

といえるようになりたい。

郡山市立富田東小学校 一年 渡邊優々子

たねをまいて、みずをあげて、ときど

きはなしかけたりして。しばらくすると、

ちいさなちいさなめが、四つでた。

うれしくて、かわいくて。にっこりえ

がおになった。

郡山市立富田東小学校 一年 菅野 紗希

おかあさんにおこられたとき、いもう

とがはしってきて、

「さきちゃん、たすけにきたよ。」

っていつてくれた。

おかあさんがわらった。たすかった。

こんどは、わたしがたすけるからね。

相馬市立飯豊小学校 三年 久米 元輝

今年の夏、ぼくは、おじいちゃんと大

洲海岸へサイクリングに出かけた。

ここは、ぼくが生まれる二日前、つな

みで道路が全部こわされた場所。でも今

は、気持ちのよい風を受けながら自転車

がこげる。

自ぜんのかと、人間の強さを、体いっ

ぱいかんじた。

相馬市立日立木小学校 二年 松本 蓮

「がんばれ」

といわれると力が出る。

「いっしょにあそぼう。」

といわれるとうれしくなる。

「いいよ。」

といわれるとほんわかする。

「ありがとう。」

といわれるとさいこう。

郡山ザベリオ学園中学校 一年 鈴木 眞瑚

「過去と他人は変えられない。しかし、

いまここから始まる未来と自分は変えら

れる。」

エリックバーン博士の言葉。

友人関係に悩んだ時、前に進む勇気を

くれた。

未来は自分で変えられる。自分を信じ

て歩み続けたい。

西郷村立西郷第一中学校 一年 小針 陽生

この前僕と買い物中、偶然、困っているろう者の方に会い、手話で優しく説明していた母。

音のない世界で意思疎通できる事に感動。僕もその世界に入って、役に立ちたい。

まずは、手話のあいさつを教わろう。きっと、僕の世界は広がるはずだ。



「わたしが感動した
ことばやできごと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 二瓶 咲紀

伊達市立堰本小学校

二年 佐藤 美桜

郡山市立芳賀小学校

六年 遠藤 陸

郡山市立富田東小学校

二年 伊藤 蒼

四年 加藤 優奈

五年 橋本 遥香

五年 松本 優

郡山市立桑野小学校

五年 高崎 陽路

須賀川市立小塩江小学校

二年 吉田 莉菜

須賀川市立阿武隈小学校

四年 羽田 夢香

須賀川市立大東小学校

二年 溝井 颯太

須賀川市立大森小学校

一年 鈴木 一颯

二年 榊田 康之

四年 村越 瑛太

玉川村立玉川第一小学校

五年 佐藤 快成

平田村立蓬田小学校

六年 遠藤 真央

白河市立白河第五小学校

一年 佐藤 沙妃

会津美里町立高田小学校

六年 小原 彩音

相馬市立飯豊小学校

三年 前川 渚

相馬市立日立木小学校

一年 塙 翼

須賀川市立第三中学校

一年 安藤絵里加

一年 関根 陽菜

二年 小川 萌

玉川村立泉中学校

三年 矢吹 駿吏

白河市立白河第二中学校

二年 神山 優美

白河市立白河南中学校

一年 赤沼 悠汰

西郷村立西郷第一中学校

一年 藤田 愛梨

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

一年 横山 佳音

福島県立白河旭高等学校

一年 筒井海南子

福島県立平支援学校

三年 大村 莉未

『わたしが感動したことばやできごと』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 二瓶 咲紀

つばめのすをみつけた。つばめのこどもがげんきにないている。なつになるといなくなっていた。

つばめのこども、おとなになって、らいねんかえってくるといいな。

そのときは、わたしは、二ねんせいだよ。

郡山市立芳賀小学校 六年 遠藤 陸

あの日、ぼくはカギを忘れて家に入れず困っていた。雷が鳴り、大雨が降ってきて、泣きそうなぼくに声をかけてくれた近所の人。

あの日のホッとした気持ちを忘れずに、今度はぼくがだれかを助けよう。

伊達市立堰本小学校 二年 佐藤 美桜

学校でそだてていたピーマンのなえに、小さなピーマンがーこだけになりました。まい日水をあげて、大じにそだてたので、とってもかわいいなと思いました。とれたピーマンは、大じに、れいぞうこにしまっておりす。

郡山市立富田東小学校 二年 伊藤 蒼

「ありがとう」

と言われると、うれしい気もちになれる。えがおにもなれる。心があたたかくなれる。

「ありがとう」って、しあわせになれるじゅもんのことばみたい。もっとみんなにたくさんつたえたいな。

郡山市立富田東小学校 四年 加藤 優奈

「いつも、優奈の味方だよ」って、言ってくれる、お父さんとお母さん。だから、私は、どんななやみがあったとしても、前を向いてがんばれる。失敗したって大じょうぶ。本当の味方がいるって、勇気がわいてくるんだな。

郡山市立富田東小学校 五年 松木 優

ある生徒が放課後に歩道橋を毎日掃除していた。冬の寒い日もどんな日も。先生が、どうしてそこまで聞くと、ここを通る人が大変じゃないように、と答えた。私もそんな思いやりのある人になりたい。

郡山市立富田東小学校 五年 橋本 遥香

しょうぎの強いおじいちゃんに初めて勝った。私が勝って、おじいちゃんが負けたのに、おじいちゃんはうれしそうに笑った。私は、負けるとくやしい顔をしていると思う。大人になったら、負けても笑顔になれるのかな。

郡山市立桑野小学校 五年 高崎 陽路

ぼくは、アンリー・デュナンの「みんな同じ人間どうし」という言葉に感動しました。たとえ戦争中でも、デュナンはけがをしている人を、敵軍でも、差別をせず、助けました。ぼくも、差別をしない社会を創りたいです。

須賀川市立小塩江小学校 二年 吉田 莉菜

「ごめんなさい。」

あやまることは、かんたんなようでむずかしい。ゆう気を出して言うてみて。しぜんとえがおになっていくよ。

たった一言が、友だちやかぞく、まわりの人もおだやかにするね。

須賀川市立大東小学校 二年 溝井 颯太

大すぎだよ。

ありがとう。

かなしいとき、おこっているとき、このことばを聞くとふつうになる。

おこっているママに言うてみた。おにのようなかおがニコツとわらった。

あいほ、ことばにするとつたわる。

須賀川市立阿武隈小学校 四年 羽田 夢香

私は、夏休み十才のたん生日をむかえた。私は半分大人にな

った。私はうれしかった。でも、十才まで育ててくれた両親に、「ありがとう。」と言えなかった。どうしてもてれくさかった。

今日、家で言う。

「ありがとう。」

須賀川市立大森小学校 一年 鈴木 一颯

ぼくにはおばあちゃんが、ふたりいる。

としをとっているおばあちゃんは、九十さい。

こしがいたい

あしがいたい

けれども、ぼくのおとうと二さいとあそぶと、げんきになる。ふしぎ。

須賀川市立大森小学校 二年 榊田 康之

「おかあさんのたからものたち。」

おかあさんは、ぼくたちをこうよびます。お兄ちゃんときどきけんかしたり、おかあさんをこまらせたりするのに、ふしぎです。

でもおかあさんのたからものなのでなかよくしていきたいです。

玉川村立玉川第一小学校 五年 佐藤 快成

毎日言われる言葉。

「いつてらっしゃい、気をつけてね。」

と母が言う。

そういえば、小さい時に

「何を？」

と、聞いたことがある。

すると、

「無事に帰ってきて。」

と母が言った。

だから今日も気をつける。

須賀川市立大森小学校 四年 村越 瑛太

ぼくは、お父さんとキャッチボールするのが大好き。ぼくが

どんなに悪い球を投げてても、ぜったいにキャッチしてくれる。

だから、ぼくはお父さんのおねめがけて、思いつきり投げる。

お父さんの、

「ナイスボール。」

は、最高に気持ちがいいんだ。

平田村立蓬田小学校 六年 遠藤 真央

陸上という種をまいて、努力という肥料をやり、汗という水を

あたえ、勝利という花を咲かせよう。

私は、陸上が好き。

どんな時でも仲間がいて、時にはライバルって思う時もある。

それがいいんじゃない。

白河市立白河第五小学校 一年 佐藤 沙妃

相馬市立飯豊小学校 三年 前川 渚

心ってどこにあるの
むねかな？
あたまかな？
おなかかな？
いろいろなみだがあるから
目にあるのかな？
犬の心は、しっぽにあるかもしれない。
いろんな心があるんだね。

「ばあちゃん。」
ばあちゃんってすごい
手芸、食べ物
何でもできちゃう
ばあちゃんっていいな
ばあちゃんってたいへんかな
でもいつも笑顔
そんなばあちゃんが私は、大好き
大人になったら、ばあちゃんみたいになりたい。

会津美里町立高田小学校 六年 小原 彩音

相馬市立日立木小学校 一年 塙 翼

泣いていい
逃げてもいい
ただ諦めるな
この言葉を本で読み
気持ちに楽になった
諦めたら終わりだから
限界まで負けない
最後まで成しとげる
努力をする

いただきます
ごはんのあいさつ。
ぼくはみんなであべるごはんがたのしい。
あたたかいごはんもうれしいけれど、みんなのたのしいかおの
ごはんがいちばん。
みんなのえがおもいただきます。

須賀川市立第三中学校 一年 安藤絵里加

私が、感動した言葉は、「母さんとお父さんは、あなたの味方だよ。」と手紙に書いてあった。

私は、いつも悲しい気持ちになった時、お父さんとお母さんのこの言葉に愛を感じて、たすけてもらっている。

須賀川市立第三中学校 二年 小川 萌

私が感動した言葉は、「過ちは消せず、忘れられない。なら、何度でも乗り越えるだけだ。」という言葉です。

私は昔から失敗を恐れ、失敗しては後悔ばかりしていました。でも、この言葉が、前に進む勇気を与えてくれました。

須賀川市立第三中学校 一年 関根 陽菜

「おはよう。」私は、この言葉で一步を踏み出すことができました。

私は中学校入学と同時に、転校しました。こわくて悲しくて不安だったとき、友達の「おはよう」で明るい心になることができました。

玉川村立泉中学校 三年 矢吹 駿吏

「何かを得るには何かを失わなければならない」

何かを得た時に何を失ったか考える人は少ないと思う。考えずに得たい物を取り続けると大きな問題となり、私達に降りかかる。

この言葉は環境問題の解決に必要な言葉だ。

白河市立白河第二中学校 二年 神山 優美

「苦しみときは成長のとき」

マザーテレサの言葉です。この言葉を目にした時、素直に頑張ろうと思えました。

これまでの出来事に苦しみを感じる事がありましたが、自分は乗り越えられると思わせてくれた言葉です。

白河市立白河南中学校 一年 赤沼 悠汰

「あなたならできる。」

これは、小学校六年間お世話になった先生の言葉です。信じてくれている人がいるからこそ成長できました。これから、信じてくれる人のために頑張ります。そして、僕もそういう存在になりたいです。

西郷村立西郷第一中学校 一年 藤田 愛梨

「目の前をふさいでいるのは壁じゃなくて扉なんだ」という言葉に感動しました。この言葉で、落ち込んでいた私は、目の前の壁ではない扉を、勇気を出して開け、前に進むことができました。挑戦する勇気をくれた言葉です。

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 一年 横山 佳音

大丈夫という漢字には一文字ずつに「人」という漢字が入っているから、一人じゃない三人いる、だから大丈夫。という言葉の本で見ました。

なぜ「大丈夫」という言葉を聞くと安心するのかやっと分かった気がしました。

福島県立白河旭高等学校 一年 筒井海南子

「自分で愛せる自分じゃなきゃ誰かに愛されるはずなんてない。」こう彼女は言った。

私は自分が嫌いだった。でも、この言葉に出会い、私は変わった。以前よりも明るくなり、笑顔も増えた。ありがとね、心ちゃん。

福島県立平支援学校 三年 大村 莉未

私は自分のいい所なんか無いと思っていた。でもボランティアア部に入って、自分の障がいの事をはなしている間に、自分のいい所を見つける事が出来た。

誰にでも良い所はある。私はそれをたくさんの人に伝えていきたい。



「わたしが感動したことばやできごと」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

五年 尾形 桃佳

福島市立矢野目小学校

六年 亀井 星来

郡山市立芳賀小学校

四年 本田 美緒

六年 小名 百芭

郡山市立薫小学校

三年 関根 文夏

郡山市立富田東小学校

一年 相原 健人

二年 門馬 凜

二年 大和田悠仁

三年 小檜山和夏

三年 岩室 莉央

三年 安藤 祐翔

四年 葛西 貴大

四年 丸野 七瀬

四年 久保 翔

四年 高澤 愛佳

四年 佐藤 煌介

五年 蛭田 優姫

六年 菅野 瑠泉

六年 青柳 楓

六年 荒井 俐人

須賀川市立稲田小学校

五年 真壁 創志

須賀川市立阿武隈小学校

五年 有我こころ

五年 渡辺 瑠菜

五年 薄井 蓮旺

五年 鈴木 果乃

五年 長久保大輝

五年 吉川 陽向

六年 斎藤 滉大

須賀川市立柏城小学校

三年 竹田 悠雅

四年 荒川 慶太

須賀川市立大森小学校

一年 関根美央莉

五年 鈴木 光樹

玉川村立玉川第一小学校

五年 大和田琉夏

西会津町立西会津小学校

六年 渡部 晃大

新地町立新地小学校

三年 齋藤 葵

相馬市立大野小学校

六年 門馬 穂佳

相馬市立中村第二小学校

五年 青田 輝

六年 林 聖大

相馬市立磯部小学校

五年 村岡明日空

相馬市立日立木小学校

五年 前川 真穂

須賀川市立第三中学校

一年 佐藤 克輝

一年 吉田 旭陽

一年 矢吹陽花里

二年 高木 遥菜

「わたしが感動したことばやできごと」入選 受賞者

白河市立白河南中学校

二年 木村 知葉

二年 鈴木 和奏

三年 伊東 日和

西郷村立西郷第一中学校

一年 植木 凧紗

一年 鈴木 ころ

福島県立橘高等学校

一年 齋藤 千晴

福島県立白河旭高等学校

一年 豊田 彩華

一年 鈴木 愛叶

一年 陰山 遥加

一年 森 光



作品応募校

福島市立福島第一小学校	鏡石町立第一小学校	双葉町立双葉北小学校
福島市立矢野目小学校	天栄村立大里小学校	いわき市立内町小学校
伊達市立堰本小学校	玉川村立玉川第一小学校	郡山市立富田中学校
郡山市立片平小学校	平田村立蓬田小学校	郡山ザベリ才学園中学校
郡山市立芳賀小学校	小野町立浮金小学校	須賀川市立第三中学校
郡山市立薫小学校	白河市立白河第五小学校	玉川村立泉中学校
郡山市立富田東小学校	棚倉町立山岡小学校	白河市立白河第二中学校
郡山市立富田西小学校	矢祭町立矢祭小学校	白河市立白河南中学校
郡山市立桑野小学校	西会津町立西会津小学校	西郷村立西郷第一中学校
郡山市立朝日が丘小学校	会津美里町立高田小学校	南相馬市立原町第三中学校
須賀川市立西袋第二小学校	南会津町立松沢小学校	福島県立橘高等学校
須賀川市立稲田小学校	新地町立新地小学校	学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校
須賀川市立小塩江小学校	相馬市立大野小学校	学校法人東稜学園福島東稜高等学校
須賀川市立阿武隈小学校	相馬市立中村第二小学校	学校法人松韻学園福島高等学校
須賀川市立柏城小学校	相馬市立飯豊小学校	福島県立白河旭高等学校
須賀川市立大東小学校	相馬市立磯部小学校	学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校
須賀川市立大森小学校	相馬市立日立木小学校	福島県立平支援学校
	南相馬市立高平小学校	
	南相馬市立八沢小学校	
	双葉町立双葉南小学校	

年度別応募状況

年 度	応 募 校 数				応 募 作 品 数			
	小学校	中学校	高等学校	合 計	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	29	10	1	40	951	385	25	1,361
平成19年度	32	6	4	42	1,749	211	115	2,075
平成20年度	29	2	2	33	1,683	268	45	1,996
平成21年度	24	2	4	30	1,401	159	64	1,624
平成22年度	42	7	2	51	2,859	757	24	3,640
平成23年度	35	7	1	43	3,325	912	4	4,241
平成24年度	47	11	18	76	3,666	735	338	4,739
平成25年度	60	14	20	94	5,602	1,048	889	7,539
平成26年度	48	6	12	66	5,175	1,018	1,027	7,220
平成27年度	45	12	13	70	3,992	1,373	76	5,441
平成28年度	44	11	9	64	4,847	1,433	405	6,685
平成29年度	43	12	9	64	3,542	1,048	477	5,067
平成30年度	34	11	7	52	2,883	1,047	397	4,327
令和元年度	39	8	7	54	2,784	457	198	3,439

令和元年度 テーマ別応募作品数

	小学校	中学校	高等学校	合 計
いのちの詩・愛の詩	622	69	23	714
わたしにできるボランティア	993	151	60	1,204
わたしのふるさと	618	106	48	772
わたしが感動したことばやできごと	551	131	67	749
応募総数	2,784	457	198	3,439

作品審査を終えて

詩・一〇〇文字作品審査は令和元年度十四回を迎えました。

今年も、子どもたちの「やさしさ、あたたかさ、思いやり」

の心を大切にした多くの作品に触れることができました。

令和元年を期に、作品の「あゆみ」を少し振り返ってみたい
と思います。

平成十八年（二〇〇六）青少年赤十字活動の充実を願って日
赤福島県支部事業として始まり、四〇校、一、三六一点の応募
がありました。今年度は五四校、三、四三九点です。六年前の
平成二十五年には九四校、七、〇〇〇点を超す応募がありまし
た。さまざまな事情を乗り越え事業の充実のために努力したい
と強く思います。

平成二十三年（二〇一一）三月十一日に起きた東日本大震災・
原発災害は、以後子供たちの作品の上に大きな影響を与え続け
ています。

平成二十三年作品から（一部抜粋）

・原発事故の 風ひよう被害 安全かもしれない 野菜も果物
も すべて捨てられる…

何も悪いことしていないのに、だれも悪くないのに

安積三小 六年 安部さんの作品

・私は、こわくなった。あの、震災が起こる前私は、恐怖など、
感じたこともなかったのに…

私は心配した。父や母のこと…大切な命のことを

福島二中 一年 齋藤さんの作品

・じしんはもういや。…くるまがたんぼのなかにあった。こう
えんがなくなった。ふねがどうろにあった。…ぼくはいきて
いる。げんきいっぱい。

鏡石二小 一年 藁谷さんの作品

・夜おそく、お母さんがかえってきた。お母さんは、ぼくを見
て大泣きした。つなみではしがこわれたからかえってこれな
かったんだ…

原瀬小 二年 味原さんの作品

大震災を通して様々に恐ろしい体験をした子供たちが、いのちの危機に直面した一〇〇文字作品を、読み返してみました。

また、日本各地から、世界から、多くの支援や励ましを受けたことも子供たちの心に刻まれました。

翌二十四年、日本赤十字社社長賞が加わり、全国の加盟校に福島の子供たちの声が届くようにもなってきました。

東日本大震災後、来年は十年目を迎えます。子供たちの記憶からも遠のき、関連した作品はさすがに少なくはなってきましたが、よく読みますと故郷を想う背景には震災の影響を読み解くことができます。『福島の空はこんなにも素晴らしい』と呼びかける作品が目立つようになってきました。うれしいことです。

それにしても、平成二十三年震災の年の作品として、一部を紹介した子供たちは、今は高校や大学・社会人となって立派に活躍されていると思うと、これまたうれしいのです。

さて、最後になりますが、ご応募いただいた学校並びに、来年度新しくご応募いただくためにお願いしたいこと。

一 余計なことと考えず、子どもたちの書く力・考える力をつけるために一〇〇文字作品を活用していただきたいこと。

二 書かせようとすると、つい、書き出しを一斉に指導しがち

になりますが、その子に合った書き出しが魅力です。

三 審査を通して審査員の心をとらえるのはその子の体験が、その子の生活が伝わるものに向かいます。

四 子どもの成長を是非お届けください。

令和元年十一月 二次審査会にて

審査委員長 藤田 伸朔



審査にご協力いただいた皆様（敬称略）

☆ 審査委員長（全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会長）

○藤田 伸朔

☆ 審査委員（赤十字指導講師、青少年赤十字福島県指導者協議会地区会長、福島県青少年赤十字賛助奉仕団員）

青田 富男	青山 邦夫	阿部 友紀	阿部 正明
荒川 孝子	石井 幸男	鵜沼美枝子	遠藤さとみ
遠藤 晴美	大山 郁	面川 孝子	春日 芳則
勝倉 孝行	金谷 哲	○川田 昌利	菅藤 文彦
管野 孝司	木下 忠孝	黒澤 一男	後藤さとみ
小林 伸行	今野 滋子	齋藤 吉成	佐藤 光男
佐藤 吉則	下重 悦子	○栢田 祐子	鈴木 昭雄
鈴木 茂郎	○鈴木 進一	鈴木 雅之	鈴木 美津子
鈴木 英孝	高野 博幸	高橋 光雄	武田 幸子
田村 良江	角田 和弘	圓谷 厚子	鶴見 常夫
野口 桂子	○芳賀 伸介	旗野 宣久	菱沼 明美
平田 州一	廣瀬 要人	福地 敏教	星 仁子
○松田 貞夫	目黒美智子	皆川 晃	安田 悠子
山内 寿一	山口 彌代	山下 富夫	山寺 精吉
吉岡 映子	吉田 佳正	吉田和賀子	渡邊 勲
渡部 毅			

（日本赤十字社福島県支部）

事務局付部長兼総務課長
組織振興課長兼ボランティア係長
組織振興課

岸波 庄一
石田 政幸
佐藤 敦子
土屋 悦男
小池 樹里

※○印…二次審査員

